

<博士後期課程の学位申請要件>

1) 医療福祉学専攻

学位申請年度末で当該課程に3年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を16単位以上修得見込であること。

(1) 学会発表：3回以上(発表者であること)

(2) 論文発表：論文1本以上(単著でも共著でも可、共著の場合筆頭著者)

(注)

【論文】査読のある学術雑誌(川崎医療福祉学会誌を含む)に掲載あるいは掲載が決定していること。論文の内容は学位論文のテーマに関するものであること。

2) 臨床心理学専攻

学位申請年度末で当該課程に3年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を16単位以上修得見込であること。また、論文の主題となる研究分野で、主著の原著論文が少なくとも2編以上、うち少なくとも2編は審査制度のある学術雑誌(うち1つ以上は学外の学術雑誌)であること。

3) 保健看護学専攻

学位申請年度末で当該課程に3年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を16単位以上修得見込であること。

(1) 博士論文審査提出日までに、入学後の研究成果を論文として査読のある全国誌以上(英文誌を含む)に掲載(掲載証明を含む)されること。

(2) 当該論文は、博士論文審査出願者が筆頭著者であること。

4) 感覚矯正学専攻

学位申請年度末で当該課程に3年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を16単位以上修得見込であること。また、査読制度を有する学術雑誌において、学位論文に関連する主題に関する原著論文が受理されている。

5) リハビリテーション学専攻

学位申請年度末で当該課程に3年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を16単位以上修得見込であること。

(1) 1編以上が全国誌以上(国際英文誌を含む)かつ非商業の学術雑誌に受理あるいは掲載されること。

(2) さらにもう1編以上が学術雑誌に受理あるいは掲載されること。

6) 健康科学専攻

学位申請年度末で当該課程に3年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を16単位以上修得見込であること。また、審査つきの学会誌や学術雑誌等に、研究テーマに関連する論文が投稿されていること。

7) 医療技術学専攻

学位申請年度末で当該課程に3年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を16単位以上修得見込であること。

(1) 3件以上の学会発表経験を有すること。うち1件は国際学会での発表であることが望ましい。

(2) 本審査までに1報以上の査読付き原著論文の掲載決定を有し、それらの内容が博士論文に含まれていること。筆頭著者であり、原則的に英文誌であること。また該当分野において広く認識されている英文誌であることが望まれる。

8) 医療福祉マネジメント学専攻

学位申請年度末で当該課程に3年以上在学見込であり、大学院学則第20条に定める授業科目を16単位以上修得見込みであること。さらに、申請者を筆頭著者とする原著論文が、査読のある学術雑誌に1編以上、掲載されているかまたは掲載が受理されていること。

<博士後期課程の学位論文審査基準>

1) 医療福祉学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切かつ主体的に行われている。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有している。
4. 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・章立て・引用・注・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。
7. 上記の基準を満たした上で、当該学問分野における研究を進展させるに足る知見(学術的価値)が見出せる。また、その点に基づいて申請者が近い将来、自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められる。

2) 臨床心理学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切かつ主体的に行われている。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有している。
4. 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・章立て・引用・注・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。
7. 上記の基準を満たした上で、当該学問分野における研究を進展させるに足る知見(学術的価値)が見出せる。また、その点に基づいて申請者が近い将来、自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められる。

3) 保健看護学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切かつ主体的に行われている。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有している。
4. 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・章立て・引用・注・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。
7. 上記の基準を満たした上で、当該学問分野における研究を進展させるに足る知見(学術的価値)が見出せる。また、その点に基づいて申請者が近い将来、自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められる。

4) 感覚矯正学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切かつ主体的に行われている。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有している。
4. 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・章立て・引用・注・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。
7. 上記の基準を満たした上で、当該学問分野における研究を発展させるに足る知見(学術的価値)が見出せる。また、その点に基づいて申請者が近い将来、自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められる。

5) リハビリテーション学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切かつ主体的に行われている。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有している。
4. 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・章立て・引用・注・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。
7. 上記の基準を満たした上で、当該学問分野における研究を発展させるに足る知見(学術的価値)が見出せる。また、その点に基づいて申請者が近い将来、自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められる。

6) 健康科学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切かつ主体的に行われている。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有している。
4. 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・章立て・引用・注・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。
7. 上記の基準を満たした上で、当該学問分野における研究を発展させるに足る知見(学術的価値)が見出せる。また、その点に基づいて申請者が近い将来、自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められる。

7) 医療技術学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切かつ主体的に行われている。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有している。
4. 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・章立て・引用・注・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。
7. 上記の基準を満たした上で、当該学問分野における研究を発展させるに足る知見(学術的価値)が見出せる。また、その点に基づいて申請者が近い将来、自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められる。

8) 医療福祉マネジメント学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされている。
2. 情報収集：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータの収集が適切に行われている。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が適切かつ主体的に行われている。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有している。
4. 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されている。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目的・章立て・引用・注・図表等に関しての体裁が整っている。
6. 倫理的配慮：研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされている。また、学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守している。
7. 上記の基準を満たした上で、当該学問分野における研究を発展させるに足る知見(学術的価値)が見出せる。また、その点に基づいて申請者が近い将来、自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められる。